平成 23 年度第 2 回富山県環境審議会廃棄物専門部会　議事録

1　日時

平成 23 年 12 月 22 日（木）13 時 30 分から 15 時まで

2　場所

富山県民会館 704 号室

3　出席者

委　員：竹内(茂)専門部会長、竹内(章)委員、荒川特別委員（代理：田島課長）、岩田専門員、白江専門員、丁子専門員、西中専門員

事務局：堀生活環境文化部次長、堀口環境政策課長、藤平蔵廃棄物対策班長　他

4　議事内容及び結果

（1）富山県廃棄物処理計画の改定について（審議）

計画の素案について事務局から説明した後、質疑が行われ、事務局案について概ね専門部会の了承を得た。なお、修正については専門部会長一任とされた。

（2）今後の進め方について

今後の改定スケジュールについて事務局から説明した。

5　主な意見、質疑応答

［竹内専門部会長］

震災廃棄物の処理はそれぞれの市町村でということになるのか。廃棄物処理計画の中に盛り込む必要はないのか。

［事務局］

一般廃棄物であり、基本的には市町村で処理することになるが、例えば処理施設が損傷したり量が膨大な場合にはその市町村だけでは処理できないことも想定される。県としては隣県や産業廃棄物協会等に協力を要請するといったことも考えられるが、現在見直しが行われている地域防災計画の中で検討されるものと考えている。

［岩田専門員］

事業系の一般廃棄物が把握しきれていないとの説明があったが、どういうことか。

［事務局］

市町村の施設で受け入れた事業系一般廃棄物は当然含まれているが、事業者から直接民間事業者に委託された分は、現在の実態調査方法では把握できない。

［西中専門員］

富山市では、事業系可燃ごみについてはクリーンセンターにおいて量を把握しているが、事業者が資源としてリサイクルしているものは含まれていない。今後は、民間事業者の処理施設の状況を調査するなど、事業系ごみの状況をもっと正確に把握したうえで、その資源化を進めていきたいと考えている。なお、この件については、一般廃棄物対策推進協議会の中でも課題として挙げられている。

［岩田専門員］

「一般廃棄物」と「ごみ」の使い分けがはっきりしていないのではないか。

［事務局］

使い分け、表記については、一度整理させていただきたいと思う。

［竹内委員］

第 5 章など、全体として主語が非常にはっきり記述されて良いと思うが、第 4 章の「富山ビジョン」のところの主語がよく分からない。

［事務局］
　各主体がそれぞれの役割に応じて、「富山ビジョン」の実現に向けた取組みをそれぞれの立場で実施して欲しいということで、ここでは敢えて主語は明示していない。

［白江専門員］
　第 5 章第 1 節は「地域特性を活かした～」というタイトルになっているが、第 2 章第 1 節で説明されている本県の地域特性との関連性が分かりにくいのではないか。
［事務局］
　地域特性として、例えば産業構造で言うと、工業県ということを反映して産業廃棄物排出量の 7 割を多量排出事業者が占めることや、小型家電について、県内に高度リサイクルが可能な事業者が立地していること、さらに、循環資源の地産地消、食品廃棄物の堆肥化について、これも県内にそういったことができる事業者が立地していることなど、本県の特徴や強みを活かして施策を推進するといった形で記述している。
［竹内委員］
　そういった本県の個々の特徴を第 2 章にも掲げておいて、そういうものを踏まえると地域循環圏がうまく形成されるんだといった流れが読み取れるよう文言を上手く入れれば良い。それが「富山ビジョン」と言えるものになるのではないか。
［竹内専門部会長］
　施策と地域特性との関連が明確に分かるよう工夫してほしい。
［事務局］
　地域特性と施策の関連性が分かりにくいというご意見については、少し工夫したい。

［西中専門員］
　ごみ総排出量の将来予測について、現状より増加するとしているが、ごみの量が減少傾向にある中で、増加の要因をどういうところに見ているのか。
［事務局］
　これまでの取組みの成果により排出量は減少してきているといったこともあるが、近年の減少は景気後退の影響があるのではないかとされている。今後景気が回復した場合、また増加に転じることも十分想定され、あまり楽観的な将来予測は立てられないという考えから、推計にあたっては、12 年度から 21 年度までの 10 年間の 1 人あたりごみ排出量の平均を原単位として、それに人口予測を乗じて算出した。
［西中専門員］
　10 年間の平均ということで、トレンドは反映していないということか。また、人口は増える形で推計しているのか。
［事務局］
　人口は減少する方向で推計している。

［田島課長］
　第 5 章において、レジ袋や小型家電といった分かりやすい言葉と、静脈産業等といったすごく大きな面が混在して記述されているが、この計画を読んだ時に自分達の役割が分かるよう、県民ができること、事業者がやるべきこと、行政が実施していくことなど、ステージないしは対象者を分けて記述するのもひとつの方法ではないか。
［事務局］
　対象者については、県、市町村といった形で主語を記述することで整理した。また、2R を強く推進したいという意味もあり、まずは 2R という観点から施策を整理した。

［田島課長］
　産業廃棄物に関する情報公開について記述しているが、本来は一般廃棄物も含めた

廃棄物処理行政全体の情報公開をきちんと行うべき。県民にとって分かりやすいものとなるよう、例えば、生ごみを減少させましょうというのが何に繋がっているのかということもしっかりと伝わるような工夫が必要である。

[事務局]

一般廃棄物については、税金を投入していることから情報公開は当然であり、敢えて記述する必要はないと考えた。産業廃棄物について記述したのは、背景としてやはり不信感があり、情報公開を通じて透明性を高めたいという趣旨である。県民に知ってもらうため、従来からホームページや環境フェア等で情報発信してきたが、引続きしっかりと実施していきたいと考えており、環境教育の推進などに記述したい。

[田島課長]

「産業廃棄物処理施設の設置許可手続きを円滑に進めます」とあるが、本文では「厳格に審査を行います」が結論となっている。表題だけを見ると処理施設をどんどん作りましょうと捉えられかねないので、県民や事業者に本来の趣旨とかけ離れた想像をされないよう、円滑という言葉を別の言葉に代えるなど調整してはどうか。

[事務局]

必要な処理施設の設置は推進しなければいけないが、ご指摘のとおり、円滑に進める＝悪く言うと便宜を図ってやると誤解されかねないので、この表現は工夫したい。

[田島課長]

重要なのは、県民や事業者に現状を十分理解してもらい、自分たちの行動が次にどういうことに結びつくのか、どういった行動が推奨されるのかといったところを分かりやすく提言することである。一方、行政機関同士の情報交換も重要であり、行政自身もしっかりとした学びの場を持たなければいけない。国としても情報の共有化をお互いにしっかりとやっていきたいと考えているので、県にもぜひ取り組んでほしい。

[事務局]

計画があってアクションに繋げていくということも重要であることから、そういったアクションの部分を皆さんに呼びかけるというところでの工夫をしていきたい。

[丁子専門員]

環境教育の推進について、とやま環境フェア等のイベントは、主催者にとってはやりやすいが、関心のある人しか来ない。あまり関心がない消極的な人に対して情報発信する方法がないのか。逆に富山県の特徴であるレジ袋の削減の取組み等は、ほとんどの人が反対もなく参加しているが、達成感が分からない。いろんな場面で県民に自然と分かる、積極的に行かなくても見える、それがどう環境に貢献しているのかが実感として分かるといった工夫が必要ではないか。それを具体的に盛り込むことができれば、富山ビジョンの特徴を出すことができるのではないか。

[竹内専門部会長]

イベントでは関心のある人は来るが、それをさらに広げるにはどうしたらいいか。そういうところを積極的に検討できないか。

[丁子専門員]

イベントの開催にはかなりのコストをかけていると思うが、それに見合うだけの県民の参加があるのかというとなかなか難しいのではないか。例えば、事業所においてリサイクルに取り組んだり、あるいは従業員に対するセミナーを開催していると思うが、そういうものをもっと見える形にして公表する、場合によっては県民の参加も認める、あるいはセミナーの中身を情報公開するといった工夫をお願いしてはどうか。

[事務局]

「見える化」は、関心がない人にも見せて興味を引く大事なことだと考えている。

今、見える化としてエコ･クッキングに取り組んでいるが、例えば、エコ･クッキングと地産地消、食材を大切にすることなどを関連付けて見える化して、その成果を情報発信することを考えており、こういったことを環境教育の推進に記述したい。

［竹内専門部会長］

レジ袋の削減は、見える化という意味では非常に浸透したと思われるが、エコ･クッキングについてはどのように考えているのか。

［事務局］

エコ･クッキングについては、調理だけではなく、買い物から片付けまで幅広く捉えて定義づけしており、買い物といった消費行動はもちろん、消費を促す小売側での努力もお願いして見える化を PR できればと考えている。また、家庭内においても、興味のない家族にも見えるようにすることによって、外向けに広がる行動だけではなく内向きの行動も含めてエコ･クッキングという取組みが役立てばと考えている。

［竹内専門部会長］

環境教育の推進については、意識的にこの程度の記述内容に抑えているのか。

［事務局］

予算の裏付けが無いことは無責任に記述できないことから、今の段階で考えられるものを記述した。見える化については少し工夫が必要だと思うので、検討したい。

［西中専門員］

富山市も一般廃棄物処理基本計画を見直しているが、なかなか良いリユースの施策がないことが課題だと感じている。ぜひ新しい施策を先導的に考えていただきたい。

［竹内専門部会長］

2R と 3R の使い分けはどうなっているのか。

［事務局］

当然 2R の方が優先順位が高いということもあるが、ごみとして出てしまったあとはリサイクルか処分しかないので、その前になんとか抑えたいということで、3R の中でもまず排出抑制･再使用、いわゆる 2R に取り組みたいという形で整理した。

［竹内専門部会長］

確かにリサイクルも必要だが、まずはリデュースやリユースに取り組むべきであり、今回 2R に力を入れるんだと宣言したことは大変意味があることだと思う。

［岩田専門員］

産業廃棄物は基本的には排出事業者責任ということもあって具体的な施策が記述しにくいとは思うが、もう少し例示を入れて記述していただけるとありがたい。

［事務局］

予算の問題等もあり、どこまで具体的に踏み込めるかということもあるが、今年度実施した産業廃棄物削減検討会等における事業者の意見も踏まえ検討したい。

［丁子専門員］

自治体の役割の中で、教育機関の役割というものは挙げればどうか。教育や学校の役割や貢献も無視できないのではないか。

［事務局］

教育の現場で一生懸命取り組んでいただいていることは認識している。その記述については、環境基本計画での表現も踏まえつつ検討したい。

［竹内専門部会長］

本日の意見を踏まえ、私と事務局で案を修正し、各位に提示したい。その後、パブリックコメント等を経た上で次回会議を開催したいので、よろしくお願いしたい。